

箕面国有林概要



近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所

箕面森林事務所

1. 箕面国有林の概要

箕面国有林は、箕面市の北部に位置し、その面積は約 590ha（東京ドーム約 125 個分の広さ）あります。

国有林の前身は旧藩領地と旧寺領地からなり、全域「明治の森箕面国定公園」・「明治の森箕面自然休養林」に指定されています。

中央部には昭和 57 年に完成した箕面川治水ダムがあるほか周辺には、勝尾寺、瀧安寺、箕面の滝など一連の観光地があります。



◇明治の森箕面国定公園

明治 100 年を記念して S 42 年に東京の高尾山と共に指定をうけました。

総面積 963ha のうち約 590ha (61%) が国有林です (私有林 18%、府有林 11%、市有林 6%、寺有林 4%)。

都市近郊林として地理的条件がよく、年間来訪者は新緑・紅葉の季節をピークに約 200 万人を越える利用者がいます。(箕面市調査)。

国定公園内の動植物		
哺乳類	ニホンザル等	20 種
鳥類	ヒヨドリ等	100 種
昆虫類	チョウ類等	3,000 種
魚類	アマゴ等	10 種
植物	カエデ科等	1,100 種

◇明治の森箕面自然休養林◇

特に景観が美しく、保健休養に適した森林として S52 年に指定を受け、自然探勝、登山、ハイキング、キャンプなどを複合的に楽しむことができます。

2. 箕面国有林の現況

箕面国有林の標高は 100m～600m で、樹木のある林地面積が 542.33ha (内 2.16ha は伐採跡地)、除地面積が 44.19ha です。

林地面積の内訳は右の表のとおりで、人工林が77%を占め、樹種別割合は、スギ45%、ヒノキ50%、マツ4%、その他広1%となっています。

林種	面積 (ha)	割合 (%)	材積 (m ³)		
			N	L	計
人工林	414.31	76.7	104,426	1,570	105,996
天然林	125.86	23.3	9,298	8,548	17,846
計	540.17	100.0	113,724	10,118	123,842

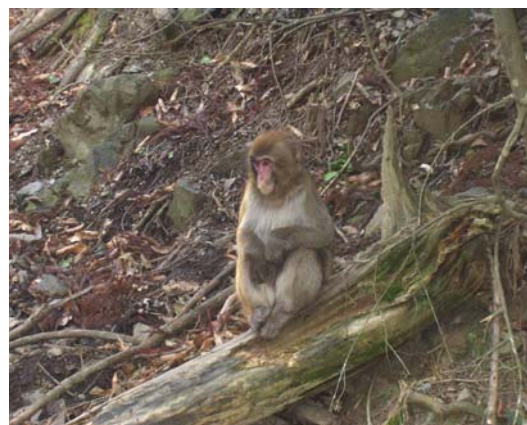
また、人工林の大部分が間伐の必要な40～50年生前後の年齢となっています。天然林の年齢は、36年生～120年生で尾根筋にアカマツを配したシイ・カシ・カエデ主体の森林になっています。

3. 箕面国有林の特色

(1) ニホンザル（天然記念物）

大都市近郊で野生のニホンザルの生態や行動を観察できることはきわめて貴重であるとされ、昭和31年に天然記念物として指定を受けています。

しかし、その後餌付け等により人になれるようになり、人家に侵入したり土産物店を荒らしたり、あるいは観光客に飛びついたりするなどの猿被害が問題となりました。



天然記念物指定のニホンザル

箕面市はこの問題を解決するため、現在国有林内にある天上ヶ谷林道（275林班）で餌場を設けて、天然記念物であるニホンザルを自然に返す試みを行っています（平成6年猿の管理棟新設）。平成22年4月1日には観光客による餌やりが後を絶たないため、箕面市が「箕面市サル餌やり禁止条例」を施行されました（現在頭数約600頭弱）。皆さんも箕面を訪れた際は、猿に餌を与えないようにしてください。

(2) 森林ボランティア活動等

箕面国有林は、大都市近郊に位置することから、国有林PR活動の場・学校教育の学習の場として、多数イベント・森林教室・林業体験などが開催されています。森林ボランティア活動も盛んで、国有林とボランティア団体との間で「ふれあいの森」や「遊々の森」の協定を結び、複数年間のボランティア活動を行っています。

団体名	位置	活動時期	活動内容
NPO 日本森林ボランティア協会	273林班 270林班か小班	月1回	間伐、枝打ち、歩道修繕
日本労働組合総連合会 大阪府連合会	270よ1林小班外4	年3回	下刈り、間伐、枝打ち、歩道修繕

森林ボランティアの活動（平成21年度）

◇ふれあいの森

NPO等が植樹・間伐等の森づくり活動や自然観察会、森林教室等の森林とのふれあい活動を行う場であり、様々なアイデアを活かした自主的な活動を行う場として利用されています。平成21年度では全国で132箇所設定されています。



間伐木を伐る小学生

◇遊々の森

子どもたちが植樹・下刈等の体験活動や野生動植物の観察等の学習活動を行う場であり、森林利用を通じた子どもたちの人格形成や幅広い知識の習得の場として利用されています。平成21年度現在全国で162箇所設定されています。

(3)「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」

平成21年度に地元の11の市民団体と、行政機関、大阪府、箕面市、国がメンバーとなって設立された組織です。

同休養林の適切な整備・管理に向け、年に7回程度の例会を開催して、意見交換や活動方針の決定等を行い、対話と協働的な取り組みを進めています。



例会の様子

◇今年度活動予定御紹介

例会で具体的にどのような整備や管理の取り組みを行っているか、御紹介致します。

○箕面の森案内板整備事業

来訪者が安全に安心して楽しんでもらうため、今年度、地図に緊急ポイント等が記載された看板を、60ヶ所設置する予定です。看板の設置は、協議会メンバーの市民団体が中心となって行われます。

設置される案内板が右の図です。地図だけでなく、道に迷ったりしたときのポイント等が右下に、左下には行く先が書かれています。



案内版

○ベンチやテーブルの施設整備

協議会の市民団体の中で、木工製作の活動を行っている団体がベンチやテーブルの修繕や新たに製作等を行っています。今年度も施設整備が行われております。

別添の写真は作業風景で、私も参加して作成したベンチです。後ほど施設案内で御紹介します、勝尾寺園地に設置致しました。



製作風景

○箕面の山大掃除大作戦

箕面国有林だけでなく、国定公園内で問題となっているのが不法投棄です。ボランティアの方々の協力やハイカーのマナー向上により、不法投棄の量も年々減少傾向にあります。また、沢山国定公園内に過去に捨てられたゴミが残っています。

こうした状況から平成16年に、市民の方々が「箕面の山パトロール隊」という団体を結成され、毎月箕面の山を12コースに分けてごみ拾いを行って、不法投棄の防止活動が行われております。この大掃除大作戦は平成17年度から、年に一度毎月の定期パトロールでは回収しきれない



昨年度作業風景

ゴミの回収を行っている活動で、今年も 12 月に予定されています。この活動に協議会も協力します。昨年度は 409 名参加され 6.41t 回収されました。

(4) 「明治の森箕面自然休養林巡視協力員」制度員が自主的な活動の中で、自然休養林内の様々な情報収集を行い、当該国有林の管理経営に協力することを目的とし、平成 14 年度から実施されている制度です。主な活動内容は、不法投棄や盗伐、山火事・土砂崩壊等災害に関する情報、希少野生動植物に関する情報提供などで、現在の協力員は 18 名おります。

(5) グリーンサポートスタッフ

平成 18 年度からの新制度「天然生林管理水準確保緊急対策」による非常勤職員（通称：グリーンサポートスタッフ）を 2 名雇用し、土曜日、日曜日を中心に、不法投棄監視、ハイカーのマナー向上に取り組んでいます。

4. 国有林内の施設

《勝尾寺園地》

昭和 42 年（1967 年）に、「明治の森箕面国定公園」の指定と、翌 43 年（1968 年）「明治の森箕面自然休養林」の設定を受け整備した園地（面積 9.55ha）で、国により管理しています。

◇施設概要◇

○樹木園（0.78ha・約 90 種類）

箕面国有林の代表的な樹木のほか、アメリカや中国などの外国原産樹種 9 種類を植栽。

○郷土の森（0.56ha）

昭和 30 年（1955 年）「明治 100 年」を記念して都道府県から寄贈された「都道府県の木」を植栽。



○ウィングハウス

平成 2 年（1990 年）の「国際花と緑の博覧会（鶴見緑地）」を記念して建てた、大きく羽ばたく鳥をイメージした休憩舎。



○エコトイレ

天然の杉チップの中に存在する微生物の働きで「し尿」を処理。し尿汲み取りの必要が全くない、自己完結型の水洗トイレ。平成 18 年（2006 年）設置。



○その他

「芝生広場」や大阪平野が展望できる「展望所」、「林間広場」など。

◇施設概要◇

○箕面ビジターセンター（箕面自然教室）

「明治の森箕面国定公園の」中心施設で、指導者が利用者に対し公園の内容や季節の見所、動植物など箕面の自然に関する質問に答えています。

○東海自然歩道

「明治の森箕面国定公園」から東京の「明治の森高尾国定公園」まで 1 都 2 府 8 県を結んだ全長 1,697km の歩道で政之茶屋が西の起点となっています。

○自然探求路

自然に関する解説書が所々にあり、散策しながら自然を知ることができる歩道（国定公園内に 7 路線あり、箕面ビジターセンターからは 2 路線が起点となっています）。



東海自然歩道 西の起点

《エキスポ '90 みのお記念の森》

平成 2 年大阪鶴見緑地で開催された「国際花と緑の博覧会」を記念し整備された森林公園で面積は 30.00ha。

◇施設概要◇

四季の花が楽しめる「花の谷」、や野外活動の場として楽しめる「芝生広場」、晴れた日には六甲山まで見渡せる「展望台」があります。

5. 国有林周辺施設

○箕面大滝

落差 33m、豊かな水の爆音は四圍にこだまして、新緑や紅葉に映えるようすは箕面を代表する景観のひとつとして、広く一般に親しまれています。

流れ落ちる滝の姿が、農具の「箕」に似ていることから、箕面滝と呼ばれるようになり、地名の由来もここから来ていると言われています。



箕面大滝

○勝尾寺

奈良時代末期の神亀 4 年（727 年）、摂津国守藤原敦房の双生児義仲、善算の開基で、宝亀 6 年（775 年）光仁天皇の御子開成王子によって弥勒寺と名づけられ、その後清和天皇から「勝尾寺」寺号を賜った。

西国三十三か所観音霊場のひとつで、二十三番札所として有名であり、重要文化財の法華経など貴重な文化財がたくさんあります。

○瀧安寺

白雉元年（650 年）役の小角が箕面寺を建立したのが始まりといわれ、現在もなお、山岳信仰修験道の根本道場として、全国各地から修験者が集まり、大護摩法要が毎年 4、7、11 月に行われている。

祀られている弁財天は日本最古のものであるといわれています。

○大阪府営箕面公園昆虫館

昆虫の宝庫として有名な箕面の昆虫類を広く府民に紹介するため、昭和 28 年（1953 年）に開館。館内には、国内外の珍しい外国の昆虫の標本を展示するとともに府民に向けてさまざまな催しを開催しています。